

2023 年度自己評価取りまとめ

会議日 2024 年 7 月 26 日

参加者：玉田（理事長）、中原（教務主任）、西村（教務）、池田（教務）、飯田（事務局）

1. 学校の理念・使命・ビジョンについて

【意見】

- ・進学に特化しているということは明確に理解されている。
- ・新型コロナ感染症を回復した人材不足等で外国人留学生が活躍できる社会ニーズ等を踏まえた学校の将来構想を公表できるようにしてもらいたい。
- ・新興国留学生数が以前にもまして増えてきている今こそアピールできるようにしたほうが良い

- （学校の対応）今後も進学に強い学院のイメージを継続して行きたい。
- （学校の対応）留学生に対しより良い進学ができる支援をさらに PR できるよう SNS 等の媒体も使いながら実施していきたい。

2. 組織運営・人事システムについて

【意見】

- ・事務職員も能力向上のための研修等が必要ではないか
- ・情報システム化による効率向上がまだ不十分との意見がある。
- ・留学生の増加による対面対応できる人材を増やすべきではないか。

- （学校の対応）今後教職員とも研修を実施し、人材開発を行っていく。
- （学校の対応）学生数の増加のため事務作業が増えることは理解している。さらなるシステム化も今後当然検討する。
- （学校の対応）人員は増強していきたい。

3. 学生指導について

【意見】

・学生による授業評価を適時に実施して、その評価を授業にフィードバックしていくべきであるとの意見がある。

・卒業生のその後の歩みを検証して、当学院の日本語教育の良さ悪さを検証する必要があるのではないか（ある卒業生によると当学院の日本語教育は良い。大学院に進学した時に他の学生と比べると日本語ができていると評価してもらっているとのことである）

・高卒の若い留学生も増えているので、社会のマナーを教える機会を作ってもらいたい。

●（学校の対応） これまでにもまして学生に対してキャリア教育も含め進学に資する対応を実施していく。

● 学生による授業評価を適時に実施していく。

● 日本で生活するためのマナーを勉強できる機会を作っていく。

4. 日本語指導について

【意見】

・どうしてもコミュニケーションの力がつきにくい。学生個人個人に任せるしかないのだが何かいい方法を今後考える必要があるのではないか。進学時にもコミュニケーションが取れないと志望校合格は難しい。

・非漢字圏の学生が増えてきているので、そうした学生に対する日本語指導にさらなる工夫が必要であると思われる。

●（学校の対応） 勉強会等での授業の質を高める工夫を継続してほしい。

●（学校の対応） 非漢字圏留学生への指導勉強会を開催してもらいたい。

5. 学生からの評価について

【意見】

・日本語能力試験等の対策授業については学生アンケートからも一定の評価を得ている。

●（学校の対応） 学生の満足度を上げる活動は常時していくようにする。

●（学校の対応） 対策授業について、さらにより良くする必要がある。